



総論◎第2章

西予市の特性・ニーズと
発展課題

1 西予市の特性

新たなまちづくりの方向性を定めるためには、まず、長所を伸ばす視点から、まちの特性をとらえ直し、生かすべき地域資源として整理することが必要です。新たなまちづくりに生かすべき本市の代表的な特性は、以下のとおりです。

特性1

臨海部から山間部まで変化に富んだ地形を有し、美しく豊かな自然環境・景観を誇るまち

本市は、約515k m²の広大な面積のまちで、西は宇和海に面し、東は四国山地のカルスト台地*に連なる山地が広がり、臨海部から内陸部の平野、そして山間部まで、標高差約1,400mにも及ぶ変化に富んだ地形を有し、美しく豊かな自然環境・景観を誇ります。

特性2

南予の中心に位置し、高速交通網の整備進展により発展の可能性が高まりつつある広域交流拠点のまち

本市は、愛媛県の南部、南予地方の中心に位置しています。また、JR予讃線が走り、特急停車駅である卯之町駅を有するほか、平成16年4月には松山自動車道が西予宇和インターチェンジまで開通し、松山市から車で約1時間の距離となるなど、広域的アクセス*が飛躍的に向上し、南予の広域交流拠点としての位置づけが高まりつつあります。

カルスト台地

【独、Karst】

石灰岩などの水に溶解しやすい岩石で構成された大地が雨水などによって溶食されてできた地形。

アクセス

【access】

接近すること。または近づく手段。

特性3

それぞれの地域特性に即し、多種多様な産品を生み出す農林水産業のまち

本市は、海から山までのバラエティー*に富んだ自然資源を生かし、古くから農林水産業を基幹産業として発展してきました。現在、米・果樹・野菜の生産、畜産をはじめ、それぞれの地域特性に即した多様な農業が展開されているほか、東部一帯を中心とする広大な森林を生かした林業、宇和海の豊かな海産資源を生かした水産業が展開され、多種多様な産品が生産されています。

特性4

多彩で豊かな観光・交流資源を有し、多くの人々が行き交う魅力あるまち

本市には、海から山までの美しく豊かな自然環境・景観をはじめ、古い町並みや有形・無形の文化財などの貴重な歴史文化資源、キャンプ場や海水浴場、温泉、特色ある公園、美術館、都市と農村との交流施設、さらには祭りやイベント*など、本市ならではの自然や歴史、産業、食文化等にふれあえる多彩で魅力ある観光・交流資源があり、近年、観光客は増加傾向にあります。

特性5

自主的なコミュニティ*が育まれ、住民活動が活発なまち

本市民の古くから育まれ受け継がれてきたあたたかい心や人と人とのつながりの強さ、地域連帯感の強さは、次世代に引き継ぐべき本市の優れた特性です。また、こうした住民性等を背景に、多様な分野、それぞれの地域において自主的な住民活動が活発に展開されています。

バラエティー

【variety】

変化があること。多様性。

イベント

催し物。行事。

コミュニティ

【community】

居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。町村・都市・地方など、生産・自治・風俗・習慣などで深い結びつきをもつ共同体。地域社会。

2 新たなまちづくりへの市民ニーズ

本計画の策定にあたって、市民各層の意見を幅広く反映させるため、平成16年11月に「西予市市民アンケート調査」を実施しました。その結果から、まちづくり全体にかかわる設問結果を抜粋すると、以下のとおりです。

なお、本アンケート調査は、市内に居住する20歳以上の男女の中から無作為抽出した3,000人を対象に、郵送法によって実施したものであり、有効回収数1,494、有効回収率49.8%となっています。

(1) 市への愛着度と今後の定住意向

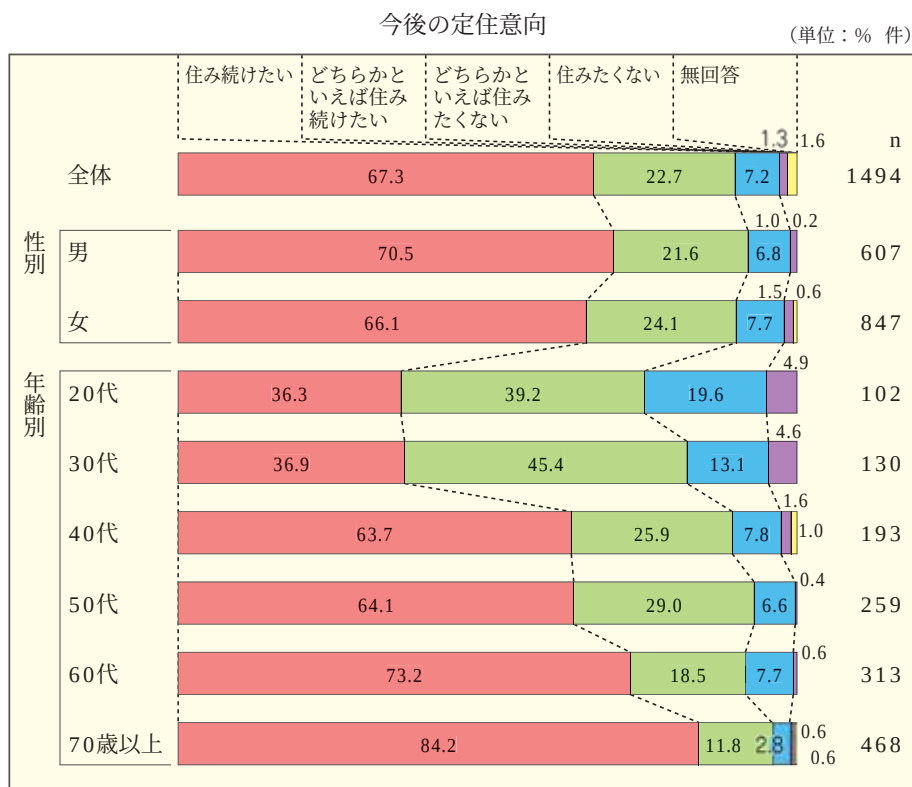
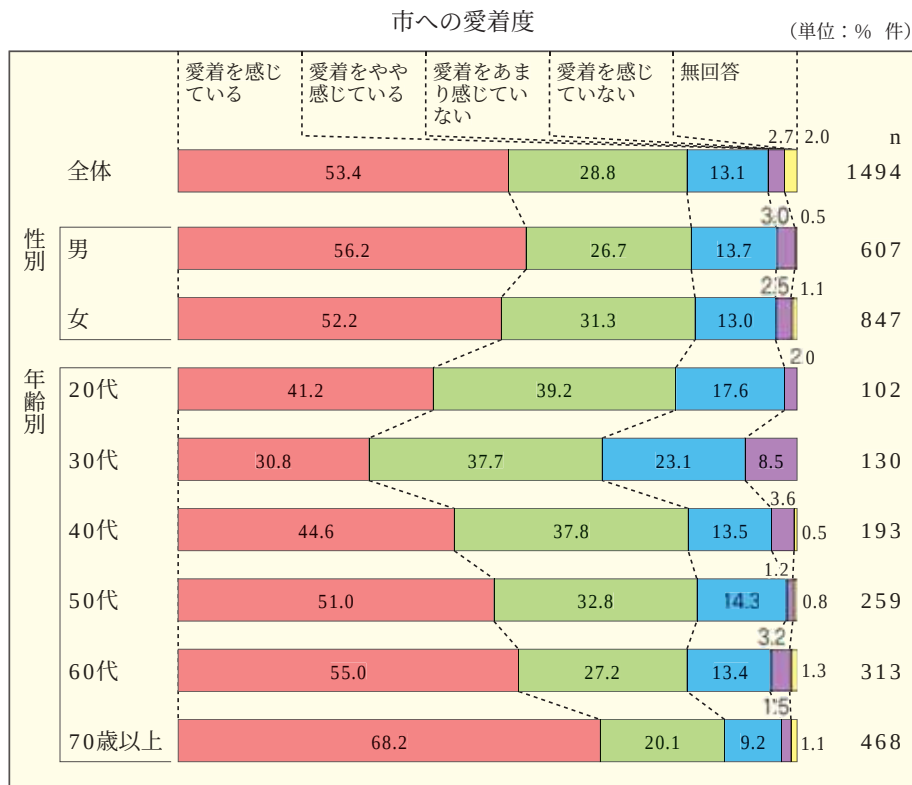
西予市に“愛着を感じている”という人が8割強、西予市に“住み続けたい”という人が9割にのぼり、愛着度・定住意向が強い。

市への愛着度についてたずねたところ、「愛着を感じている」（53.4%）と「愛着をやや感じている」（28.8%）をあわせた“愛着を感じている”という人が82.2%と8割強にのぼり、これに対し“愛着を感じていない”という人は15.8%と2割に満たず、愛着度は強いといえます。

また、今後の定住意向についても同様にたずねたところ、「住み続けたい」（67.3%）と「どちらかといえば住み続けたい」（22.7%）をあわせた“住み続けたい”という人が90.0%と9割にのぼり、一方、“住みたくない”という人は8.5%と1割に満たず、定住意向もかなり強くなっています。

なお、これらを年齢別でみたところ、他の年代に比べ、愛着度は30代（“愛着を感じている”68.5%）で、定住意向は20代・30代（“住み続けたい”75.5%・82.3%）で、それぞれやや弱いという傾向がみられました。





(2) 市の現状評価について

「自然環境の豊かさ」をはじめ、「水道の整備状況」や「人情味や地域の連帯感」などに対する満足度が高く、一方、「働きがいのある職場」をはじめ、「交通機関の便利さ」や「観光・レクリエーション施設整備」などに対する満足度が低い。

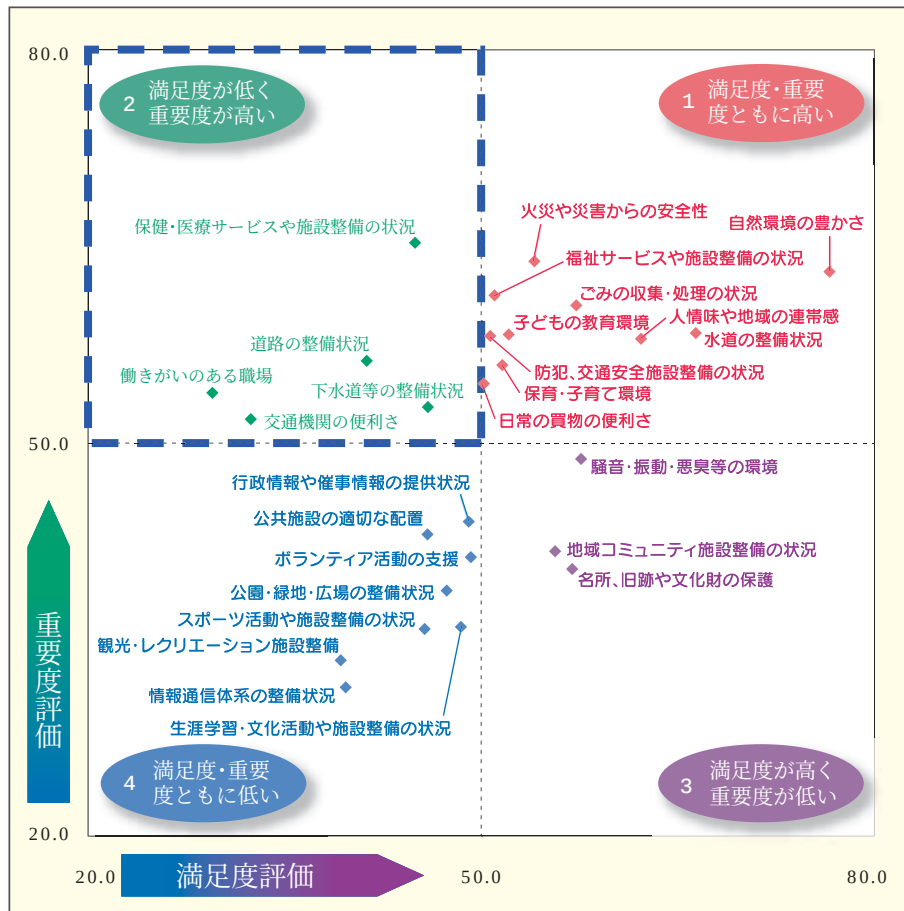
重要度との相関でみると、満足度が低く重要度が高い今後重点的な対応が求められる項目は、「保健・医療サービスや施設整備の状況」、「道路の整備状況」、「働きがいのある職場」、「下水道等の整備状況」、「交通機関の便利さ」。

西予市の現状を市民がどう評価しているかを把握するため、市の各環境(各分野にわたる26項目を設定)について、まず、どの程度重視しているか(重要度)をたずねました。その結果、重要度評価(加重平均値による数量化で評価点を算出。最高点10点、最低点-10点)が最も高い項目は「保健・医療サービスや施設整備の状況」(6.67点)で、次いで「火災や災害からの安全性」(6.47点)、「自然環境の豊かさ」(6.35点)、「福祉サービスや施設整備の状況」(6.03点)、「ごみの収集・処理の状況」(5.93点)などの順となっています。

次に、同じ項目について、どの程度満足しているか(満足度)をたずねました。その結果、満足度評価(加重平均値による数量化で評価点を算出。最高点10点、最低点-10点)が最も高い項目は「自然環境の豊かさ」(4.87点)で、次いで「水道の整備状況」(3.29点)、「人情味や地域の連帯感」(2.65点)、「騒音・振動・悪臭等の環境」(1.89点)、「ごみの収集・処理の状況」(1.87点)などの順となっています。一方、満足度評価が最も低い項目は「働きがいのある職場」(-2.50点)で、次いで「交通機関の便利さ」(-2.06点)、「観光・レクリエーション施設整備」(-0.87点)などの順となっています。

さらに、これら重要度と満足度の相関から、満足度が低く重要度が高い今後重点的な対応が求められる項目をみると、「保健・医療サービスや施設整備の状況」、「道路の整備状況」、「働きがいのある職場」、「下水道等の整備状況」、「交通機関の便利さ」となっています。

市の現状評価について(満足度と重要度の相関)



注) 満足度、重要度の評価点のばらつきを標準化するため偏差値化を行い、グラフを作成した。
ここでは最小値を20.0、最大値を80.0に設定している。

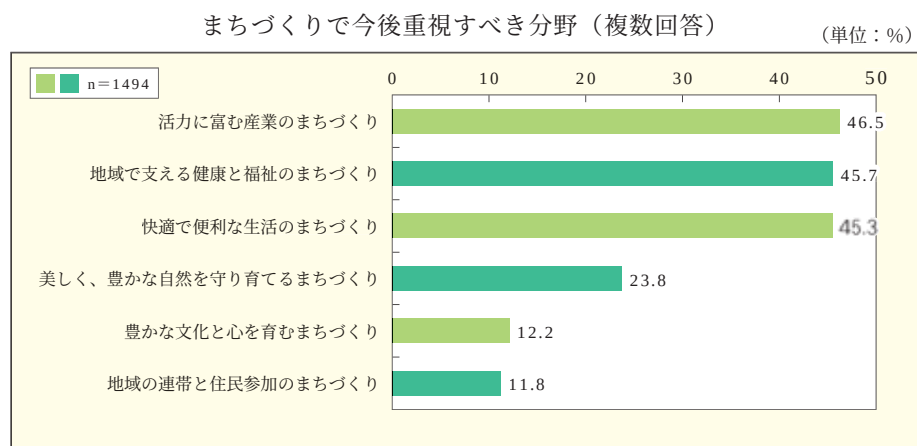


(3) まちづくりで今後重視すべき分野

「活力に富む産業のまちづくり」、「地域で支える健康と福祉のまちづくり」、「快適で便利な生活のまちづくり」がほぼ同率で上位を占め、産業分野、保健・医療・福祉分野、生活基盤分野が重視されている。

これからのまちづくりで重視すべき分野をたずねたところ、「活力に富む産業のまちづくり」(46.5%)、「地域で支える健康と福祉のまちづくり」(45.7%)、「快適で便利な生活のまちづくり」(45.3%)がほぼ同率で上位を占め、産業分野、保健・医療・福祉分野、生活基盤分野に市民の関心が集まっていることがうかがえます。

なお、これを年齢別でみると、20・30代では「快適で便利な生活のまちづくり」(生活基盤分野)、40～60代では「活力に富む産業のまちづくり」(産業分野)、70歳以上では「地域で支える健康と福祉のまちづくり」(保健・医療・福祉分野)が第1位という結果でした。



(4) 重点的に取り組むべき施策

「医療体制の充実」、「若者の定住促進のための施策」、「就労の場の拡充」、「高齢者福祉の充実」、「道路網の整備」が5大要望。

今後、特に力を入れてほしい施策についてたずねたところ、「医療体制の充実」(47.1%)が半数弱の人からあげられ第1位となっています。次いで「若者の定住促進のための施策」(42.3%)、「就労の場の拡充」(41.0%)、「高齢者福祉の充実」(37.1%)、「道路網の整備」(30.4%)の順で、これらについても3～4割の人からあげられ以下を引き離しており、第1位とあわせ5大要望となっています。

これらをみると、これまでの設問結果を裏づけるように、医療・福祉体制の充実をはじめ、若者の定住促進、就労の場の拡充、道路整備などに市民の関心が集まっていることがうかがえます。

その他では、「農林業の振興」(21.2%)、「ごみ処理・リサイクル*体制の整備」(19.1%)、「下水道・排水処理施設の整備」(16.8%)、「地域で支え合う福祉体制づくり」(15.2%)、「公共交通機関の充実」(14.9%)、「学校教育環境・幼児教育の充実」(12.5%)、「交通安全・防犯対策」(12.4%)などと続いています。



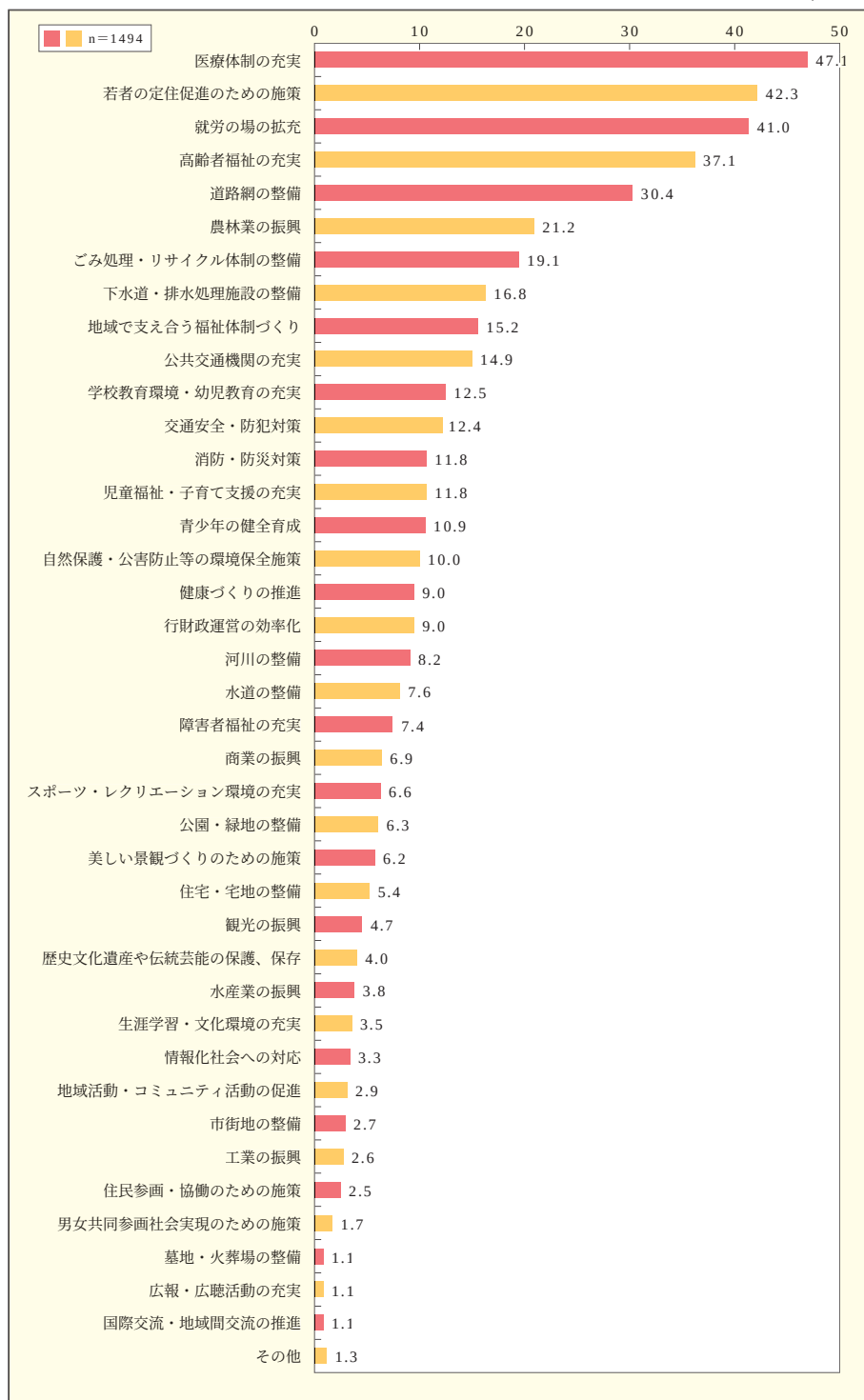
リサイクル

【recycle】

資源の有効利用、環境汚染防止のために、廃物を原料として再生し利用すること。

重点的に取り組むべき施策（複数回答）

（単位：％）



3 西予市を取り巻く時代潮流

本市は今、様々な分野において歴史的な転換期を迎えています。今後のまちづくりにおいては、広域的、全国的、さらには世界的な視点から、大きな時代の流れがもたらす様々な課題に的確かつ柔軟に対応していくことが必要です。今後のまちづくりにおいて、踏まえるべき代表的な時代の流れは以下のとおりです。

時代潮流1

本格的な地方分権時代の到来

我が国では、明治維新以降続いてきた国主導型の行政から、住民主導型、地域主導型の地域特性や生活に根ざした個性的で多様な行政に転換させる必要性が叫ばれ、これまで様々な制度が改善され、現在、地方分権^{*}は実行段階を迎えており、まさに地方主役、地方主権の時代が到来しています。また、国と地方の税財政改革（三位一体の改革）^{*}が進められる中、地域の実情に合った施策を住民参画^{*}のもとに展開していくことが一層求められます。

時代潮流2

住民参画・協働の時代の到来

地方分権が進む中、住民側においても、自分たちの地域を自分たちでつくるといふ気運が高まりつつあり、住民自らの手による特色ある地域づくりや、様々な地域課題の解決に向けた住民活動、住民と行政との協働^{*}のまちづくりが活発化してきており、ボランティア^{*}やNPO（民間非営利組織）^{*}の活動に代表されるように、全国各地で成果を上げています。

時代潮流3

予想を上回る少子高齢化の進行

我が国では、これまでの予想を上回る速度で少子高齢化が進んでおり、団塊の世代がすべて高齢期に入るおよそ10年後には、現在の状況をはるかに超えた超少子高齢社会が到来することが予想されています。特に本市では、既に3割以上が65歳以上の高齢者（高齢化率30.9%・平成12年国勢調査）となっているほか、子どもの数も予想以上に減少してきています。

地方分権

権力を中央統治機関に集中させずに、地方の自治団体に広く分散させること。

税財政改革

（三位一体の改革）

国と地方の税財政に関する計画で、地方の自由度を高め、分権社会を実現していくことに目的はあり、税の配分、税源移譲、補助金・交付金等の削減などが一体となった改革といわれる。

参画

事業・政策などの計画に加わり、一緒に計画を立てること。

協働

同じ目的のために、それぞれの役割分担のもとで協力して働くこと。

ボランティア

【volunteer】

自発的に事業に参加する人。特に、社会事業活動に無報酬で参加する人。篤志奉仕家。

NPO（民間非営利組織）

「Non-Profit Organization」の略。「非営利団体」「非営利組織」と訳される。政府や自治体も「非営利組織」と考えられるため、行政機関ではないということを明確にするために「民間非営利団体」と訳すこともある。元々は米国で非営利団体全体を指す言葉として使われていた。日本では市民活動団体やボランティア団体を指す場合に用いられることが多いが、一般的に、利益を追求しない団体の総称になる。

時代潮流4

“環境の世紀”の到来

地球の温暖化やオゾン層^{*}の破壊、海洋の汚染などの地球環境問題の深刻化や、ダイオキシン^{*}類等の化学物質による新たな環境問題の発生などを背景に、地球規模で環境保全の重要性が叫ばれています。国においては、平成12年に「循環型社会^{*}形成推進基本法」を施行したほか、新たな環境基本計画^{*}「環境の世紀への道しるべ」を策定し、さらに平成14年には「京都議定書」を締結するなど、環境問題への取り組みを一層本格化させてきており、市町村においても、持続可能な社会への変革を目指した具体的な行動の推進が極めて重要な課題となっています

時代潮流5

高度情報化・国際化の一層の進展

I T（情報技術）の飛躍的な進歩等により、パソコンや携帯電話などの情報機器とインターネット^{*}（世界規模の通信ネットワーク）が爆発的に普及し、情報ネットワーク社会が急速に拡大しています。市町村においても、各種の行政サービスをインターネット等を利用して提供する「電子自治体」の構築が進められています。

また、国際間における交通・通信手段の発展や経済の国際化等を背景に、人、物、情報の交流が世界的な規模で行われるようになり、あらゆる分野において国際化が急速に進んでいます。

時代潮流6

産業を取り巻く環境の急速な変化

我が国の第一次産業をめぐるのは、従事者の減少や高齢化、後継者不足などが進む一方、市場開放等による輸入産物との競争の激化や消費者ニーズ^{*}の変化、環境保全や安全・安心な食への意識の高まりなど、構造的な変化が急速に進んでいます。

また、商工業においても、規制緩和や生産拠点の海外進出、価格革命、消費者ニーズの変化などを背景に、大型店舗の地方都市への進出、既存商店街の衰退などが進んでいます。

オゾン層

地上10～15kmのあたりのオゾン濃度の高い大気の層。動植物に有害な太陽からの紫外線を強く吸収する。

ダイオキシン

【dioxin】
有機塩素化合物でポリ塩化ジベンゾダイオキシンの略。非常に強い毒性があり、しかも安定な物質で水に溶けないなどの性質がある。

循環型社会

環境への負荷を減らすため、自然界から採取する資源をできるだけ少なくし、それを有効に使うことによって、廃棄されるものを最小限におさえる社会。

環境基本計画

環境保全施策の総合的かつ計画的な推進を図るために作成する市町村計画。

インターネット

【Internet】
個々のコンピューター通信ネットワークを相互に結んで、世界的規模で電子メールやデータベースなどのサービスを行えるようにした、ネットワークの集合体。

ニーズ

【needs】
必要。要求。需要。

時代潮流7

成熟化社会への移行

高度情報化や国際化、高度技術化の急速な進展等を背景に、社会は着実に成熟化社会へと移行しています。このような中、人々の価値観は物の豊かさから心の豊かさへ、量の拡大から質の向上、選択の幅の広さへと大きく変化してきており、ゆとりやうるおい、美しさや快適さ、個性や感性、安全性、癒しなど、より質の高い生活を重視する傾向を強めています。

時代潮流8

求められる“共生社会”の実現

少子高齢化や核家族化の進行等を背景に、地域ぐるみの子育てや子どもの教育、高齢者の見守り、災害への対応などの必要性が高まる中で、コミュニティ*活動等を通じて地域連帯・交流を深め、地域で支えあいながら共に暮らしていくことの重要性が、あらためて認識されるようになってきています。また、男女が互いを尊重し合い、社会のあらゆる分野に平等な立場で参画*できる環境づくりや、障害の有無などにかかわらず、すべての人が家庭や地域社会で通常の生活を送れる社会づくり、さらにはあらゆる差別をゆるさない人権尊重の理念の浸透などがますます重要視されてきています。

時代潮流9

高速交通網の整備進展

我が国では、これまで第5次全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」に基づき、交通・情報基盤の整備と人の交流促進を柱に、生活の豊かさと自然環境の豊かさが両立し、地域の多様な発展を目指す多軸型の国土づくりによる“地域連携型国土”の形成が進められてきました。

四国地域においても、瀬戸内三橋時代が到来したほか、四国縦貫・横断自動車道の整備が進められ、本市においても、平成16年4月に松山自動車道が西予宇和インターチェンジまで開通し、広域的アクセス*が飛躍的に向上しています。

コミュニティ

【community】

居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。町村・都市・地方など、生産・自治・風俗・習慣などで深い結びつきをもつ共同体。地域社会。

参画

事業・政策などの計画に加わり、一緒に計画を立てること。

アクセス

【access】

接近すること。または近づく手段。

4 西予市の発展課題

これまでみてきた本市の特性や市民ニーズ*の動向、取り巻く時代潮流を踏まえ、西予市の発展課題をまとめると以下のとおりです。

発展課題1

南予の広域交流拠点としての新たな交流と定住を支える基盤づくり

松山自動車道の延伸をはじめとする広域的な地域構造の変化を見通し、計画的かつ調和のとれた土地利用のもと、人々が集う魅力ある市街地環境の整備や定住基盤となる住宅・宅地の整備、便利で安全な道路・交通・情報ネットワークの整備、さらには快適な暮らしの基盤となる公園・緑地や水道・下水道の整備を推進し、南予の広域交流拠点としての交流人口・定住人口の増加を見据えた基盤づくりを進めていく必要があります。

発展課題2

環境と健康を重視した、だれもが元気で安心して暮らせる住みたくなるまちづくり

自然環境の保全や快適性・安全性を求める住民ニーズ、持続可能な循環型社会*の形成などの社会的要請への対応、さらには全市的に大きな課題となっている若年層の定住促進に向け、総合的な環境・景観保全施策の推進や廃棄物処理の充実、防災体制の強化を進めるとともに、少子高齢化の急速な進行と保健・医療・福祉の充実を強く求める住民ニーズに対応した、地域で支えあえる新たな健康福祉社会の構築を進め、だれもが元気で安心して暮らせる住みたくなるまちづくりを進めていく必要があります。

発展課題3

明日の西予市を担う心豊かで創造性あふれる人材の育成、貴重な歴史文化資源のまちづくりへの一層の活用

明日の西予市を担う心豊かで創造性あふれる人材の育成と、そのための生涯にわたる自己実現の場や機会の拡充、まちの個性を生み出し住民の一体感を高める芸術・文化・スポーツ活動の活発化、歴史文化の継承と創造に向け、多様な生涯学習・スポーツ資源を活用した総合的な学習環境づくりを進めな

ニーズ
【needs】
必要。要求。需要。

循環型社会

環境への負荷を減らすため、自然界から採取する資源をできるだけ少なくし、それを有効に使うことによって、廃棄されるものを最小限におさえる社会。

がら、特色ある学習・芸術・文化・スポーツ・交流活動などの一層の活発化を促していくとともに、市内に数多く存在する貴重な歴史文化資源の保存とまちづくりへの一層の活用を進めていく必要があります。

発展課題4

多種多様な産品を生み出す農林水産業を柱にした、特色ある自立した産業構造の確立

豊かな住民生活の実現と市勢の発展、雇用の場の創出に向け、多種多様な産品を生み出す農林水産業のまちとしての特性・資源を最大限に生かし、農業、林業、水産業の維持・高度化を重点的に進めるとともに、これら農林水産業と一体となった観光・交流機能の創出、地域性に即した商業、工業の振興を進め、本市ならではの特色ある自立した産業構造を確立していく必要があります。

発展課題5

住民と行政とが心をあわせた協働のまちづくり、それぞれの地域が輝くまちづくりの推進

地方分権^{*}時代において、住民と行政との協働^{*}による魅力ある自立したまちづくりが進められるよう、また、各地域の実情に即した個性豊かな地域づくりが一層進められるよう、これまで活発に進められてきた多様な住民活動を一層促進しながら、住民と行政との協働体制を強化していくとともに、地域コミュニティ^{*}の育成・支援や地域の意見反映に努め、住民と行政とが心をあわせた協働のまちづくり、地域が自立しながら輝くまちづくりを一層進めていく必要があります。

地方分権

権力を中央統治機関に集中させずに、地方の自治団体に広く分散させること。

協働

同じ目的のために、それぞれの役割分担のもとで協力して働くこと。

コミュニティ

【community】
居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。町村・都市・地方など、生産・自治・風俗・習慣などで深い結びつきをもつ共同体。地域社会。